

芸備線 復旧作業の進捗状況について

3月23日に芸備線 備後八幡駅～内名駅間で発生した落石の影響により、東城駅～備後落合駅間では運転を取り止め、斜面の調査を実施しています。

当初、5月下旬の運転再開を目指していましたが、調査の結果、東城駅～備後落合駅間の一部で落石対策工事などを行う事となりました。このため、同区間では7月下旬頃の運転再開を目指し作業を進めてまいります。

※東城駅～備後落合駅間では引き続き代行輸送を行います。なお、代行輸送は列車のダイヤ通りには運行できない可能性があります。

1. 落石対策の概要

- ・落石の当該箇所（備後八幡駅～内名駅間）では、専門家による現地調査の結果を踏まえ、「落石防護網（ポケット式）」「ワイヤーロープ工」「ワイヤーネット工」による落石防止対策を実施。（別紙参照）

2. 当該箇所（備後八幡駅～内名駅間）付近の状況



当該箇所付近（備後八幡駅～内名駅間）における対策（※イメージ）



① 落石防護網（ポケット式）

岩石露出部分から転落した落石がネット裏に入るとともに、上部からの落石もこの中に入り、跳躍を防ぎ、落下エネルギーを吸収しながら落下するように開口部を有するもの。この工法は比較的小さい規模の落石に適用される



② ワイヤーロープ工

浮石や転石が落下しないように格子状にしたワイヤーロープや数本のロープを用いてこれらを斜面上に固定する工法。地形的な制約で対策工法が限定される場合や浮石や転石が巨大な場合などで用いられることが多い。



③ ワイヤーネット工

浮石の周りに比較的小さな転石がある場合等に適する。この工法に用いる厚ネットは、ネット自体に厚みを持たせたもので、表面の凹凸が著しい岩にも追従し、岩全体に均等にネット張力がかかるような仕組みになっている。